

H20健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会 フォローアップシート

◆達成度に関するアドバイス

・次年度の施業地確保と直結した道づくりの実績については、他のプロジェクトと比較して実績著しいものがあると認識しますが、一方で、効率性に偏重する傾向が見受けられることから、今後も引き続き、道づくりに関する技術研鑽及び環境への負荷低減に努めて下さい。

◆成果に関するアドバイス

・安定した路盤の確保を理由に、地山掘削土量の増大と切取法高の拡大に伴う作業道を起点とした山腹崩壊、早期緑化を期待した、土羽下への掘削土砂撒布による林内下層植生への影響、及び下流域への細流土砂等の流出が懸念されます。
 ・一部箇所では、作業システムを優先した道づくりが進められていたことから、雪害発生地や急傾斜地等の効率的な木材生産が期待出来ない区域においては、作業道の幅員を可能量縮小させるなど、地形条件に合わせた臨機応変な対応に心がけて下さい。
 ・今後は後年度の維持管理費までを含めたトータルな採算性を念頭に、盛土施工時には、地山を段切り締め固めることにより、可能な限り掘削土量を縮減していくとともに、丸太組施工による盛土法尻での土砂崩落防止を試行するなど、一層の環境負荷の低減について取り組んで下さい。

◆効率性に関するアドバイス

・民間ならではのコスト意識、機動性の発揮により、作業道開設チームと木材生産チームが密接に連携し、効率的に木材を生産する実施体制が整備されたことについては高く評価されます。
 ・今後、間伐面積を増加させるためにも、森林組合と民間林業事業者との連携推進が期待されますが、持続可能な関係とするため、両者の役割分担を明確にすると同時に、相互にメリットを享受できる体制の構築に努めて下さい。

◆妥当性に関するアドバイス

・モデル団地を地域住民や地元森林所有者等の視察研修の場として積極的に提供し、これまで疎遠であった高密度路網と高性能林業機械を組み合わせた効率的な木材生産方式を広く紹介したことにより、地域森林所有者等の道づくりに対する意識を変革しつつあることは大変意義深く、かつ高く評価されます。
 ・森林所有者の協力的な姿勢により、現状では森林施業プランの活用が喫緊の課題とはなっていませんが、今後、森林所有者に対して十分な説明責任を果たしていくためには、森林施業プラン等を作成・活用可能な人材が必要になることから、引き続き、人材育成(森林施業プランナー養成研修の再参加等)に努めて下さい。

◆発展性に関するアドバイス

・一般公募した県民を対象とする「樺森林づくりツアー」の実施等を通じて、持続可能な林業経営等について普及啓発し、森林所有者等の自己森林に対する意識付けや満足度を向上させつつある点は高く評価できます。
 ・今後も引き続き、地元森林所有者や一般県民等を対象にした普及活動を期待します。

◆総括に関するアドバイス

・このプロジェクトは事業地単位の道づくり、森林施業を考えているのではなく、流域全体の森林づくりを考えながら取り組んでいる点が評価できます。
 ・森プロは大きな目的を達成するための練習台でありスタート地点であることを踏まえ、プロジェクトの先駆者として、計画的な森林技術者の確保・養成、行政のサポートを受けた道づくりなどとあわせて、この取り組みを岐阜県全体の森林整備に繋げていくことを期待します。

◆フォローアップ委員会の開催状況

平成20年12月26日

日 時： 平成20年11月28日(金)
 場 所： 山県市樺地内
 参加委員： 三島 喜八郎 (社)岐阜県森林組合連合会 代表理事副会長
 湯浅 勲 日吉町森林組合 理事兼参事
 篠田 成郎 岐阜大学総合情報メディアセンター 教授
 梶山 恵司 (株)富士通総研 主任研究員
 対 象： 樺森林づくりプロジェクト共同体(岐阜中央森林組合／極東森林開発(株))



プロジェクトの概要説明



洗越吐口の洗掘防止対策



直高5m超の切取法面



「流域全体を俯瞰した森林づくり」について意見交換会



安定した路盤の確保



早期緑化を期待して土羽下へ撒布された地山掘削土砂



地形条件と調和した道づくり



目標となる健全で豊かな森林

H20健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会

委員長 三島 喜八郎